

### ■ 新型インフルエンザ！

2009年3月頃からメキシコ、米国で発生していたブタ由来のインフルエンザA型(H1N1)がヒト-ヒト感染を起こして広まり、これまで知られていなかった新しいタイプのインフルエンザであることが明らかとなりました。WHOはこれを受けて新型インフルエンザに対する警戒レベルを引き上げましたが、その後瞬く間にヨーロッパ、アジアへも広がっています。日本でも当初は水際の検疫強化を行っていましたが、国内での感染は水際をすり抜けて神戸で最初の例が確認されたのを皮切りに、その後大阪でも確認され、関東でも、そして九州でも感染者が確認され徐々に感染地域が拡大しつつあります。

幸いなことに今回の新型インフルエンザは当初危惧されていた鳥インフルエンザ(H5N1)のような強毒性のものではなく、通常の季節性インフルエンザと同程度の弱毒性であり、抗ウイルス薬も有効とされています。また発病者の多くが高校生を中心とする若年層に集中しており、年長者は何らかの交叉免疫を持っているのではないかと指摘されています。幸い北半球はこれから夏に向かう季節であり感染はいったん終息へむかうかもしれないのですが、秋以降に再度感染が拡大する可能性があります。大部分の人にとっては今回の新型インフルエンザは未知のウイルスであり免疫を持たない状態であり、いったん感染がおこると急速に拡大する危険があるのは間違いありません。

インフルエンザはほとんどが飛沫・接触による感染で、我々にできることはふだん行っている風邪の予防を徹底することであり、手洗い、うがい、咳エチケットを忠実にやることにつきます。もし感染地域に行かれた後に症状が出た場合は無理に出席せず、保健管理センターまで連絡して指示をあおいで下さい。また、新型インフルエンザを発症した人と濃厚接触があったり、家族が新型インフルエンザにかかった場合も必ず連絡をお願いします。対応の詳細については医学部のホームページ上に載せてあります。必要以上に恐れることはありませんが、侮るべからずです。

(保健管理センター 尾崎岩太)

### ■ 医師臨床研修制度の見直しについて

新研修制度が始まり、研修病院が大幅に増え、地方大学の卒業生が都会に戻り、今まで大学に残っていた研修医数が減ったという意見があります。また、大学病院の医師不足が生じ、地域の病院から、医師の引き上げが起こったという話もあります。研修制度は地域医療崩壊の直接の「原因」ではなく、引き金をひく「きっかけ」となったのではないかと思います。この制度が“悪者”にされ、見直しがなされておりました。

4月28日に、正式に「臨床研修に関する省令の一部を改正する省令」が公布され、現在、各地方厚生局の主催で説明会が開かれております。

概要を説明しますと、新聞等で、「研修制度が1年に短縮される」かのような報道がありましたが、これは間違いです。研修の理念や目標は変わりません。研修が2年間義務であることも変わりません。

それでは何が変わったのでしょうか。一番大きなことは

定員の上限の設定です。これにより、研修医を多く抱えた大都市を有する都道府県の研修病院は、定員の削減を余儀なくされます。佐賀県は削減をしなくて良い県になっております。地域に医師を派遣している病院(大学病院など)は、その実績が評価され、定員の上乗せも可能になります。

それと、もう一つは、研修内容の弾力化です。今までは内科、外科、救急(麻酔)、小児科、産婦人科、精神科、地域保健・医療の「研修期間」が定められていました。それぞれの診療科に一時的に自分の居場所を移して診療していたわけですが、今回の改正では、内科(6か月)、救急医療(3か月)、地域医療(1か月)となり、外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科の5科のうち2科を任意の期間選択することになりました。理念や目標は変わらないので、あらゆる領域を学ぶ必要性は変わりませんが、患者さんの診療を通して学べる指導体制を作れば、従来の細切れで、学生実習の延長のような研修はしなくても良くなりました。また、募集定員が20人以上の研修病院では、将来、小児科および産婦人科の専攻を希望する研修医を対象としたプログラムを設定することになりました。

「教育」の観点が始まった制度を、「人手不足」の観点から見直しをしているので、非常に無理がある見直しになったのではないかと、というのが個人的な感想です。しかし、研修理念は変わりませんので、佐賀大学医学部附属病院としては、安易な方向に流れるのではなく、将来一人前の医師として貢献できるための土台作りをしっかりと行えるプログラムを作りたいと思います。(江村正)

### ■ 卒後臨床研修センターより

新年度となり卒後臨床研修センターには新メンバーが加わりました。本年度は、看護部との合同オリエンテーションや医師会の先生方にもご協力をいただき、佐賀県内の研修病院合同のオリエンテーションなども開催されました。また、H20年度予算で購入したシミュレーターもさっそくオリエンテーションで活躍してくれました。新人医師・看護師の皆さんのこれからの活躍が期待されます。

(吉田和代)



#### 教育広報部会

小田康友、池田豊子、市場正良、吉田和代、  
江村正、藤田君支、田崎法人

ご意見をお待ちしています(oday@cc.saga-u.ac.jp)

